

# 絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2024-新春

No.104

●表紙の画および題字は、  
故・平山郁夫画伯のご厚意により  
ご提供いただいているものです。



朝陽砂漠らくだ行 1986年



#### 【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

# 白川郷・五箇山の合掌造り集落

(雪の白川郷の夜)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

撮影・仙波志郎

合掌造り（がっしょうぞう）で知られる岐阜県の白川郷と富山県の五箇山（ごかやま）の集落は、一九九五年にユネスコ世界遺産とされた。合掌造りは日本の住宅の建築様式の一つである。日本政府はユネスコ世界遺産への推薦にあたって、合掌造りを「小屋内を積極的に利用するために、又首構造の切妻造り屋根とした茅葺きの家屋」と定義づけた。名まえの由来は、掌（てのひら）を合わせたように三角形に組む丸太組みを「合掌」とよぶことからきたものと思われる。

白川郷も五箇山も生活環境の厳しい豪雪地帯にある。急勾配の屋根は雪下ろしの作業軽減になる。また、水はけにもよい。

合掌造りは、屋根裏に大きな空間が生じるため、これを利用して昔は、ここに養蚕のための棚などを設けた部屋や作業部屋が作られていた。厳冬期には一階の囲炉裏の熱が上の階層にまで伝わってくるため暮らしやすいようである。

こうした環境に応じたすぐれた設計思想が生み出した合掌造りの民家は、そのユニークな姿とあいまって世界遺産とされた。

## 年頭のご挨拶

### 困難な時こそ協力の精神で……

こころ

皆様、新年あけましておめでとうございませう。令和六年（あたらしく）甲辰（えんたつ）の新春。元日には能登半島沖を震源とする震度7という二〇一一年の東日本大震災以来の大地震に見舞われ、翌日には、その被災地への物資の緊急輸送のために派遣された海上保安庁機と民間機が羽田空港の滑走路上で衝突し、炎上というショッキングな事故が相次ぎ、大変厳しい幕開けとなりました。大震災で被災された方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早く、援助の手が届くことをお祈りいたします。

さて、三年以上にわたって世界中を震撼させたコロナ禍もようやく収束を迎え、わが国でも昨年五月には新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類相当に移行されたことにより、多くの制限が緩和されました。社会経済活動が徐々に戻り、特に長らく閉ざされていた国際交流も平常に戻りつつあります。当財団が、二〇〇五年以来、日本代表団の役割を担ってきた日中韓文化交流フォーラムも、新型コロナウイルスの蔓延により、二〇一九年十一月、東京での開催を最後に見送られていりましたが、昨年十月三十日から十一月二日まで、四日間にわたり、韓国（韓国）の仁川（仁川）広域市にお

いて、四年ぶりに開催されました。詳細は本誌の報告をお読みください。「ポストコロナ時代の文化交流」をテーマに活発な意見交換が行われ、また各国を代表する書家によるライブパフォーマンスの披露も行われました。日本からは大阪芸術大学教授で、NHKの「美の壺」や大河ドラマ「龍馬伝」の題字でも知られる紫舟（しづな）さんが参加し、華麗なパフォーマンスで、大きな喝采を浴びました。また、この文化交流フォーラムの主題歌ともいえる「わたしは未来」（作詞・夢枕 獏、作曲・松下 功）が、地元（地元）の仁川（仁川）西区立少年少女合唱団によって、日中韓三カ国語で歌われ、感動的なフォーラムの再開となりました。十二月には、私が一昨年まで学長を務めた東京芸術大学に所属する藝大フィルハーモニア管弦楽団とともに、日本からみて地球の裏側にあるアルゼンチンを訪れ、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座と並び世界三大オペラ劇場と称されるブエノスアイレスのコロナ劇場（Teatro Colon）で公演を行い、三、五〇〇人近い満席の聴衆から、演奏終了後も十五分近くに及ぶブラボーとスタンディングオベーションによる異例の反応を受けることが出来



理事長 澤和樹（さわ・かずき）

ました。ブエノスアイレスでの日本のオーケストラによる公演は、一九六六年のNHK交響楽団以来、五十七年ぶりの事で、多くの日系人を含め、現地の音楽愛好家の期待はこちらの想像をはるかに超えるものだったようです。これを機に、これまで、文化交流では希薄だった南米との芸術文化での交流も、緊密に進めてゆきたいと思えます。

なかなか終わりが見えないロシア・ウクライナの戦争、イスラエルとハマスの抗争、そして日中韓も、隣国同士は、政治、経済、イデオロギーや宗教では、とかく利害が絡み、争いを誘発してしまっています。今回、復活した日中韓文化交流フォーラムでの友好ムードや、アルゼンチン公演での得難い体験から、コロナ禍や戦争で分断してしまった世界から相互理解や融和を取り戻すためにも、文化芸術による交流の促進、そして地震や、地球温暖化に起因する大規模な自然災害の多発や、争いにより傷つけられ破壊される文化財の保護など、当財団の担う役割がますます重要になる事を痛感いたします。今後とも変わらぬご理解とご支援をお願いいたします。

# 白雪姫とテセウス

ユネスコ世界遺産・平等院の  
住職が30年続けた観察・調査・研究と保全。  
その文化論、文化財への深い想いとは……。



国宝・鳳凰堂夜景：一千年前では不可能であった夜の光景。  
過剰な演出照明ではなく仏からの光が私たちに照り返す静謐さをイメージした—

## 「無価」の誤読

財という一字がつくだけで、物質と行為に人格と歴史が投影される。  
我々は生まれた時から人間で、死ぬ時も人間で、生涯人間であり続ける。同一人間のなかで変化していくのである。  
文化財は価値として創造され、伝来によって変化し生成変容を繰り返す。  
古代中国において末法が首肯されたのは、仏教が他国から伝来してきたものであり、いずれ失われていくという認識がファンダメンタルにあったためである。いわば、今は終わりの始まり。

一切皆苦といわれるように、人は自身で思い通りにできない瞬間からスタートする。皆苦であるので例外はない。選べないスタートであるから尊く、無限の可能性を秘めていると捉えられる。勝手に時間が流れていくわけではない。種を蒔かないと芽が出ないし、育てていく必要がある。縁といわれるがそれは積極的で能動的な可能性を示す言葉であろう。  
これ以上無いほど素晴らしい価値を有していると読めない人が増えている。無価である。伝承され

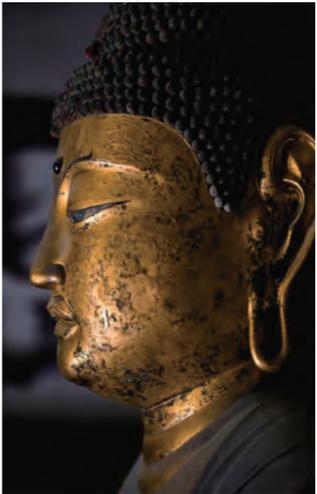
そしてもう一つ。京都本庁での「記者室」活用が少ないこともよく指摘される。現場に近い場所でのタイムリーな発信が必要なおそらく誰もが自明と捉えうる。ローカルはむしろかく全国版でないと受けつけないらしい。霞ヶ関を出た省庁として最前を走ってほしい。私たちは、今あるということ、なぜ残す必要があるのかということ、災害時対応等そのプロセスや発信すらも共有できるはずである。

博物館に収蔵されないと消えた文化財も多い。本来存在した場所からの移動であるが、このある意味形だけ残っている本義の燃えカスは大変美しいし奇跡であり新しい文化を構築する。

完全版ひらまつつとむ「飛ぶ教室」を取り寄せた。帯には「ジャンプ黄金期を彩った 伝説のマンガある日突然、核戦争で廃墟となった世界に放り出された子どもたち。極限状況の中で繰り広げられる、友情、感動、奇跡の物語—!!」とあるから読む前から期待いっぱい真をめぐった。  
人は、苦しみのなかにあってもこれほど希望をもつことができるのか。ラストのエピソードで、結婚式の最中災禍に見舞われた新郎新婦の遺体を見つけた子どもたち。高学年の男の子が、「まだ、上階には吊ってない人が残っている—早く降ろしてここに埋葬してあげなくっちゃ—」という、次のコマで、



重文・観音堂：鎌倉時代初頭の府下においても珍しい建造物。約100年修理がない



国宝・本尊阿彌陀如来坐像面相：  
像造時に何度も耳の位置を修正している。奇木造だから可能な造像と美意識

## 終わりの始まり文化財への接点

ダイナミックプライシングという瞬時の価値を最大限に活用するプログラムがある。  
原始經典の「アーガマのなかには有名な「毒箭の譬え」が伝えられている。敵の矢に当たった男が、その治療の前に「この矢はどこから飛んできたのか」「誰が射たのか」「毒の種類や色」「矢の形状」などを聞いていっているうちに毒が廻って死んでしまうという譬えである。すべきことは、まず治療を開始すること。  
先日、各道府県の担当者に修理届け中、「修理を必要とする理由」など現状についてなど、所有者が詳細に記載するよう文化庁から通達があったそうだ。所有者が所有文化財の把握を目的とするもので異論はない。私のところではできる。今回の修理届



平等院住職  
美術院監事  
埼玉工業大学理事  
神居 文彰  
(かみい もんしょう)

◎撮影：神居 文彰

低学年の子が「優先順位は食料確保の次？」という  
と、高学年の女子が「およ、チツチツチツ一年生諸君」「お葬式は最優先なんよ、おわかり？」と元氣いっばいに告げる。低学年の子は「でも花も音楽もない旅立ちじゃ二人が可哀想だね」といった瞬間どこからかシヨパンのノクターンが聞こえてくる。帰国子女の一人が残っていたピアノを奏でた旋律であり一瞬で幕前は花畑となった。稚拙であっても真心の音楽が至高の文化・手向けなのである。  
多くの能力開発啓蒙書には、「あなたには価値がある」と説く。しかしそれは正しいのだろうか。末法の突入で人はそれぞれの能力に価値がないことに気が付いた。それが浄土教である。多くの美術品がそこから誕生し、愚昧のまま人を愛し敬うことを肯定し、片意地を張らず疲れない方法での救済を背景にした文化と表現が生まれた。単純化された美の創造である。白雪姫の継母が求めた美は何だったのか、アリエルと同様に姫役は日本人だって可能である。  
\*テセウスの舟は間違いなく本物であろう。  
保全やそのための組織化というアウトプットだけにとらわれない、共に何とかしたいという曖昧な、心から残したいという愚直さが必要なのではないだろうか。

## 筆者略歴

一九六二年、愛知県に生まれる。十歳から寺へ。  
一九九一年、大正大学大学院博士課程満期退学。  
一九九二年、平等院住職就任。  
現在、東京藝大等非常勤講師。埼玉工業大学理事、(公財)美術院監事、メンタルケア協会講師など。  
主な著書に「いのちの看取り」(共著、北辰堂、「臨終行儀—日本のターミナルケアの原点—」(北辰堂)、「平等院物語」(四季社)、「平等院鳳凰堂よみがえる平安の色彩美」(東方出版)、「よみがえりゆく平等院 新資料で再現する平安美」(学研ビジュアル文庫)ほか。

※アーガマ：最も古い仏教の經典で阿含經(あごんきょう)ともいう。  
※テセウスの舟：同一性について扱った問題で、テセウスのパラドックスともよばれる。舟のそれを構成する部品が全て置き換えられた時、その舟は元のものと同じものか、否か、という問題。

# 文化財の立体的構造調査と

## デジタルデータの活用

人間と同じように文化財にとっても健康診断は大変重要なこと。その最前線では、どのような診断がなされているのだろうか……。

### ◆文化財にとって経年劣化は宿命

博物館では、収蔵している文化財について展示・保存環境を調整し可能な限り劣化を防ぐなど、人類の歴史と文化を後世に残し伝えていくための文化財保存の取り組みを行っています。しかし、形のある文化財は物質であるが故に経年劣化による損傷を免れることはできず、いつの日か修復をしなければならない時期が来てしまうものもあります。

損傷がない状態であれば安定している場合が多いですが、外部からの負荷だけでなく、経年による素材の変化や収縮などが原因でヒビが入り、さらにそこから外気に触れていなかった部分が露出することで別の形で劣化が進行することもあります。

多くの文化財は単一の素材で構成されているわけではなく、例えば木彫の仏像は複数の部材を金属の釘やかすがいを用いて固定したり、接着のための樹脂や彩色に顔料を利用するなど、用途により様々な素材を使用しています。湿度変化が多いと、吸湿などによる部位ごとの体積変化の差が影響して木部が割れたり、塗膜が剥がれて浮いてしまうこともあります。また、鉄

や鉛などを部材として使用したものは、湿気の多い環境に長い間置かれると金属部分が腐食し錆びてしまいます。錆が進行すると膨張し金属部分だけでなく周辺素材の損傷も危惧されるなど、置かれた環境により様々な影響を及ぼし、状態によっては早期の処置が必要になることもあるのです。

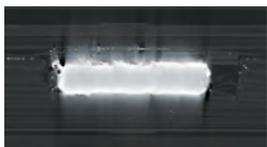
### ◆X線CTによる構造調査

文化財の損傷や劣化は、まず目視により発見される事がほとんどですが、その損傷の原因が素材や構造に起因することも念頭に置いておかなければならず、損傷箇所の修復にあたっては、まず内部の状態と構造を知ることが重要となります。解体修理の必要がある場合において、内部構造を把握しないまま解体作業を行うおとすれば、本来必要でない負荷を与える可能性もあり、場合によっては余計に損傷させてしまうことがあるかもしれません。

文化財内部の構造調査は、かつてはレントゲン撮影でしたが、現在はX線CT撮影装置(以下CT)を利用することが多くなってきました。基本的には人間が病院の検査で使用する機器をイメージしていただく



如意輪観音菩薩坐像 断面画像  
(東京国立博物館所蔵)：  
頭部内の納入物と、頸部で胴体と頭部が別構造になっていることが確認できる。



掛軸の軸内に重りとして入れられた鉛が錆びて膨張している様子。木部が押し広げられていることが確認できる。

### ◆デジタルデータの活用

X線CT撮影では断面画像の取得だけでなく同時に3Dデータも取得しており、表面形状の取得に特化した3Dスキャナと合わせて、3D映像や3Dプリンターを利用した活用も可能で、展示や修復などの博物館業務の中でも3Dデータの利用が進められてきています。

文化財は状態によっては損傷リスクを懸念し展示機会が制限されるものもありますが、実物の代わりとして模造を作成して展示することで、損傷のリスクを減らしながら作品紹介が可能です。CTデータを利用した場合内部を確認できるため、表面形状の再現だけ



左：3Dスキャナで取得した菩薩頭部(東京国立博物館所蔵)の3Dデータ  
右：修理方法検討のため3Dプリントしたものを

でなく部材構成も再現することができ、仏像内部に納入品がある場合、通常は解体しなければ肉眼で確認することはできませんが、納入品を3Dプリントすることで、納入状況を肉眼で確認することができる展示も可能です。

また、自在置物など稼働部が多い作品などは、3Dプリントで稼働する構造も再現でき、実物の代わりに触れて動かしながら作品の理解を深めることもできます。



如意輪観音菩薩坐像 頭部内納入品3D画像  
頭部内に光背や脇侍が収められていることが確認できる。



3Dプリント品の展示活用事例

文化財修復の現場では、文化財の欠損箇所をデジタル上で作成し、3Dプリントしたもので補いながら修復を行うことや、実物と同素材で補う場合に3Dプリントしたものを使用して嵌合を調整したり、修理方法の検討や実験に利用することで実物への損傷を最小限に抑える目的でも利用しています。

東京国立博物館 学芸研究部  
保存修復調査分析室 専門職  
宮田 将寛  
(みやた・まさひろ)



わかりやすいですが、レントゲン画像は奥行き情報が1枚にまとめられてしまうのに対し、CTは物体の様々な位置を個別の断面画像として見ることができ、3次元的に情報を取得しているため、多方向から立体的に構造を確認することができます。



東京国立博物館の大型X線CT撮影装置  
左：垂直型X線CT撮影装置 右：水平型X線CT撮影装置

どのような部材でどのような順番で組み立てられているかの判別や、修理の痕跡から形が作り変えられている状況が確認できたりなど、得られる情報は非常に多岐にわたります。

一見問題がなさそうな作品でも内部を確認することで、内部のヒビや虫損による空隙、部材の一部が薄く

### ◆アーカイブとCT・3Dデータ

CTや3Dスキャンで得た3Dデータは、デジタルデータであるため、物質故の素材の劣化がなく撮影当時の状態を記録しています。そのため将来的に事故や震災などで文化財が損傷した際や、経年劣化による変化、修理前後での比較が可能である他、修理の際は損傷前の3Dデータを利用することで復元時の形状再現性も上げられるなど、様々な面で有用なアーカイブとなります。

博物館に所蔵されているコレクションは膨大ですが、これまでは記録や伝承内容の事実確認や、修理を目的とした構造確認など重要性・緊急性の高い作品の調査を行ってきたのが現状です。しかし、まとまった形で体系的に調査し記録していくことは未知の事柄が体系的に見えてくる可能性もあり、学術研究のさらなる発展が期待できます。3Dデジタルデータは容量が多くデータ保存にコストがかかりますが、どのように保存していくかという問題もありますが、CTや3Dスキャンを利用した体系的な構造調査と取得した3Dデータアーカイブの構築を進めていくことはとても重要になるといえるでしょう。

#### 筆者略歴

東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。  
同大学の彫刻科及び総合芸術アーカイブセンターの教育研究助手を務め、彫刻制作と3Dスキャン、3Dデータ活用についての研究の傍ら、東京国立博物館の客員研究員としてCT導入時より携わる。その後、同博物館アソシエイトフェローを経て二〇一八年より現職。  
東京国立博物館では主に文化財のCTスキャンと3Dスキャンを担当し、取得データを用いた文化財の構造解析と3Dデータの活用に従事。

# 石の勝手

もの言わぬ「石」も  
彫刻家との対話を経て  
雄弁な「アート」の語り部となる。

## 退任記念展を回想して

二〇二三年九月三十日から十月十五日までの十四日間、東京藝術大学美術館本館三階と陳列館一階で「林武史退任記念 石の勝手」展を開催しました。この展覧会では本館三階の天井カバを開け、自然光を会場内に入れました。私の主なる作品は石彫です。展示内に降り注ぐ柔らかな光によって石の作品が軽やかに感じられ、静かな空間ができたのではと思っています。



大学美術館：「水田」と「林間」



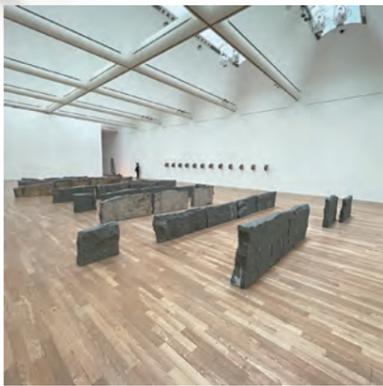
大学美術館：「夢間」と「15の蟬の声」



大学美術館：「石に花」

ご来場いただいた多くの方々にも、良い空間だったと賛辞をいただきました。これを実現するためにはいくつもの問題をクリアしなければいけなかったのですが、美術館、大学施設課の援助により私の願いが叶いました。感謝です。

本展示は、一年ほど前より展示計画を始め、できるだけ私の現在をお見せできればといった考えをもとに構成しました。過去の作品としては二〇一一年制作発表の「水田」を久しぶりに展示しました。二十二年前の作品とは思えないほど、新鮮に美術館の空間に存在



大学美術館：「水田」と「啄木鳥(きつつき)」



陳列館：「青の園」他



「石間」に上がる日比野学長(右)とテートギャラリーのキュレーター(左)

ができないことを言います。「勝手」とは自分に都合のよいように振る舞うこと。わがままといった意味合いです。本来ならば、石目に沿って割ればおおむね自分の意図に合うのですが、それがそうはいかないことがあります。実に「石の勝手」なのです。しかし、それが面白いのです。

私と石の関係は、近づき過ぎず、かといって突き放すこともなく、ある距離感を持った関係だと思っています。どちらかと言えば、親密な関係ではない。期待外れな表情を目にした時の落胆、予想外の割れ方、突然の出来事に茫然自失することの繰り返しをとおして、もちろん悔しさも伴うのですが、一瞬でそれを受け入れ、気持ちを切り替え、次に移るしたたかさを身につけることができました。「石の勝手」は、私の想像を超える偶然性をもった空間を作り出します。それは、私にとって、多くの予測できない事象にも対応できる力となっています。それは、私の作品の根底にあるものです。

## 石は人生における素晴らしい相棒

私は一九七六年に東京藝術大学彫刻科に入学しました。一年生の石彫実習では、石を彫るハンマー(石頭)の柄を自ら木を削り作ります。自分の手に合った道具作りから始めるのです。鉄ノミも鞆で火を起こし、ノ



一年生の石彫実習の様子

か、今では石彫が重労働を伴うジャンルとは言えず、多くの便利な機械、道具によって時間と作り手の根気があれば、複雑な造作も可能な時代となっています。もちろんそれでも簡単にできることではあり

ミ先を熱し焼入れをします。現在もこれは変わっていません。そして、電動等の便利な道具をいっさい使わず、手仕事で面を作り、その後テーマに沿って彫刻を造ります。

この実習は、朝早くから火を起こし、ノミを焼入れして石を彫る毎日が七週間続きます。ハンマーで手を打ち、<sup>かが</sup>屈み込んでの作業続きで腰を痛め、彫刻制作の基本である体力作りと言ってもおかしくありませんが、この経験が素材との関わりを知る上で重要な時間と言えます。し

## 私と「石」の関係

展覧会のタイトルである「石の勝手」、これは石工業界で使われる言葉で、石目が産地によって微妙にズレを有しているためになかなか思うように加工すること音であり、ある偶然の出来事でもあります。

「二〇二三年秋になりました。これからどんな時代になっていくのでしょうか？十年なんていうのはあつという間です。きつと四十七年前のことが昨日のように感じるように、時間なんていうのは行ったり来たり、伸びたり縮んだりするのでしょうか。なのであまり相手にすることなく、ただひたすら、ひとつずつ、ひとつずつです。石にノミをあてて、ハンマーで叩く。ひと振り、ひと振り、が自身との時間なのです。そして……石はいつでもじっと待っている。藝大には、石を彫る音がよく似合います」

今回、日比野克彦学長から退任展の挨拶文を寄せていただきました。その文章の一部を紹介して、私の「石の勝手」としたいと思います。

一九五六年岐阜市に生まれる。東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。彫刻家現在東京藝術大学教授。主な個展には、「石の舞、土の宴」(岐阜県美術館 二〇二二年「Hakuul」(CoornExchange gallery 二〇二二年)、「凸凹な石」(東京画廊+B7AP 二〇一八年)、「石の記憶、泥の声」(美濃加茂市民ミュージアム 二〇二〇年)、「林武史 退任記念展 石の勝手」(東京藝術大学美術館+陳列館 二〇二三年)などが、作品集には「林武史 凸凹な石」(求龍堂 二〇一八年)、著書では「むきだし石」(林武史入彫刻) (水声社より森田一氏と共著 二〇一三年)。

## 筆者略歴

一九五六年岐阜市に生まれる。東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。彫刻家現在東京藝術大学教授。主な個展には、「石の舞、土の宴」(岐阜県美術館 二〇二二年「Hakuul」(CoornExchange gallery 二〇二二年)、「凸凹な石」(東京画廊+B7AP 二〇一八年)、「石の記憶、泥の声」(美濃加茂市民ミュージアム 二〇二〇年)、「林武史 退任記念展 石の勝手」(東京藝術大学美術館+陳列館 二〇二三年)などが、作品集には「林武史 凸凹な石」(求龍堂 二〇一八年)、著書では「むきだし石」(林武史入彫刻) (水声社より森田一氏と共著 二〇一三年)。



東京藝術大学  
美術学部彫刻科教授  
林武史  
(はやし・たけし)

したことに自分の作品ながら感動しました。そして「林間」、これも二〇〇四年制作発表です。この二点を以前より、退任展に出展したいと強く思っていました。それが実現し、私自身実現できたことを嬉しく思っています。

また、「石間」「夢間」といった観者が作品に上がることで体感できる作品を展示できたのも良かったです。石と石が触れる音が会場内に響き渡り、大人も子供もみな楽しんでいました。また、展示室4の「夢間」、これは一〇〇年以上前の中学校の階段に使用されていた樫(かし)の板が敷き詰められています。古い板が反響しているため人が上がると板が跳ね、会場内に大きく反響していました。展示会場の入り口と奥の部屋での音の演出は想像を超える効果をもたらしました。作り手が操作したものではありません、観る人と作品によって生まれた音であり、ある偶然の出来事でもあります。

# ステージマネージャーの仕事

華やかな演奏会を

最高に盛り上げる影の立役者

ステージマネージャーとは……。

## ステージマネージャーとは

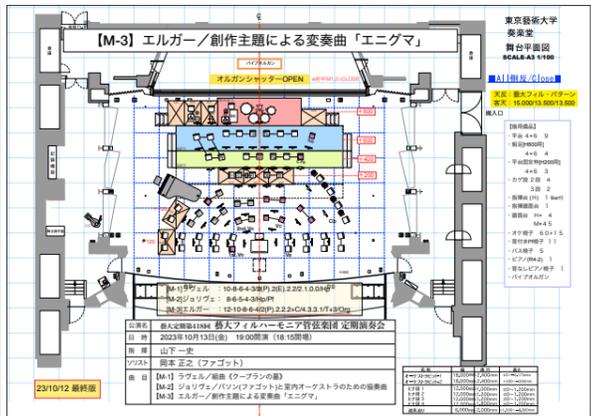
皆さんは「ステージマネージャー」という仕事をご存知でしょうか。音楽に携わっている方はご承知かと思いますが職業としてのステージマネージャー、その詳しい中身については一般には未だ正しく認知されていないかもしれません。なにしろ、ステージマネージャーを生業としている人は、多めに見積もっても日本に二百人もいないほどなのです。

その仕事は多岐にわたるため、一口に説明することは難しいですが、村上龍「13歳のハローワーク」(幻冬舎 二〇〇三年)では「舞台監督」の項目で次のように紹介されています。

「コンサートの現場の進行を統括する。リハーサルから本番までのスケジュールを管理し、PA(音響)や照明に指示を与えて、ミュージシャンや歌手や楽団にとって良い環境を整え、あらゆるトラブルを想定して、それに対処する。」

私はステージマネージャーとは何かと聞かれた時、「自らは舞台上で音を出したり表現をしたりはしないものの、演奏者や表現者らの環境を整え、音や場を創る職業」と加えて説明しています。演奏はしませんが

リハーサル当日には、楽器搬入、舞台のセッティング、リハーサル立会い、舞台転換&パミリ(位置や物のマー



ステージプラン(舞台配置図)



実際の舞台(藝大フィル定期演奏会)

一緒に音楽を創る心持ちで舞台を創っているのです。

## 舞台監督とステージマネージャー

前の項でステージマネージャーの説明として「舞台監督」の紹介文を引用したので不思議に思われた方もいるかもしれません。(舞台監督＝英語で Stage Manager) 少々やこしい話ですが、ステージマネージャーと舞台監督は同義語として扱われることもあります。実はステージマネージャーと舞台監督は同一の職業ではなく、異なる職能として扱われるケースが多くあります。

例えばオペラ、バレエなどの現場では、「舞台監督」と「ステージマネージャー」の両者が異なる役割として同じ公演現場に存在します。その場合、「舞台監督」は美術、道具、舞台機構、照明、音響、衣裳…その他全てのスタッフのまとめ役として指示出しを行い、「ステージマネージャー」はオーケストラなど演奏者によりフォーカスした働きを担います。なお、ステージマネージャーという職業はオーケストラから端を発しているのに対し、舞台監督は演劇の分野から端を発していると言われています。

キング)、温度湿度管理(空調等の調整)など。本番当日には、楽屋のチェック、進行の管理、出演者への指示出し、舞台・照明・音響への合図出し、表周りとの連絡、撤収搬出などが挙げられますが、マニュアル的にただ仕事をこなせば良いのではなく、あらゆるトラブルの対処など、場に合った臨機応変な対応が求められます。

照明へのキュー出し一つをとっても、客席の照明を落とすタイミングでお客様に伝わる印象が変わるので神経を使いますし、意外と知られていませんが、演奏が終わったあとのカーテンコールの回数などもステージマネージャーの裁量によって決めることが多いので、コンサートの始めや終わりの善し悪しを左右する大切な役割を担っているのです。頭も身体も使う仕事です。

## 人と人との架け橋に……

ここまで色々と挙げてご紹介しましたが、ステージマネージャーは独りよがりが進められる仕事ではありません。ソロや室内楽の公演であれば人数こそ一人で担当することもあります。それでも様々な人々との関わりがありますし、オーケストラ規模となれば複数のステージスタッフやライブラリアン、インスペクターなど各スタッフとの協働・連携が不可欠です。スタッフ間だけでなく、依頼主や主催者、お客様方と演奏者、コンサートに関わる全ての人をつなぐ立場とも言えますので、人と人との良い架け橋のような存在であるように……と常に心掛けています。

## 地球の裏側で

先月(二〇二三年十二月)、藝大フィルハーモニア管弦楽団は世界三大劇場の一つとも称されるアルゼンチン、ブエノスアイレスのコロン劇場での演奏を果たしました。日本のオーケストラが同劇場で演奏するのは約六十年ぶり、劇場の招聘としては初めてという大変栄



©Ayane Shindo

東京藝術大学  
演奏芸術センター  
准教授  
小宮山雄太  
(こみやま ゆうた)

## ステージマネージャーの種類と役割

ステージマネージャーも、所属などによってその役割が異なります。大きく二分すると――①オーケストラなどプロの演奏団体に所属するステージマネージャー②コンサートホールや劇場などに所属するステージマネージャー――に分かれ、前者は演奏先にも同行して様々な会場での職務を行うのに対し、後者は拠点となるホールを職場として管理者としての立場も持つて職務にあたります。他に、音楽事務所等に所属するステージマネージャーや、テーパークのショーを担当するステージマネージャーが存在します。

## ステージマネージャーの仕事

私の場合、①に近い役割になりますが、具体的な仕事のお話をします。

事前準備として、演奏する楽曲の楽器編成を確認し所有していない楽器がある場合、レンタル楽器や特殊楽器の手配。鍵盤楽器の調律の確認、搬入出・運搬の人員や車輛等の手配。ステージプランを考え、舞台配置案や公演進行表の作成、ホールや関係者との打ち合わせなど、が挙げられます。



藝大フィルハーモニア管弦楽団  
ステージ&ライブラリアンチーム  
ブエノスアイレス:コロン劇場にて

大変協力的で、日垂一丸となって終えられたことも大きな喜びでした。これからも人と人をつ結び、芸術の素晴らしさを伝え、その輪を拡げていけるよう、一心に舞台を支え続けて参りたいと思っています。

## 筆者略歴

一九八三年千葉県生まれ。幼少の頃、ヴァイオリンを習う。小学五年生から大学四年次まで吹奏楽部に在籍。ホルンを担当。大学卒業後、新日本フィルハーモニー交響楽団にて約二年半、ステージスタッフとして勤務。二〇〇八年、東京フィルハーモニー交響楽団にアシスタント・ステージマネージャーとして入団。二〇一五年、東京シティ・フィルハーモニー管弦楽団にステージマネージャーとして入団。  
二〇一九年、東京藝術大学演奏芸術センター准教授に就任、藝大フィルハーモニア管弦楽団ステージマネージャーを兼任。二〇二二年より藝大フィルハーモニア管弦楽団事務局次長、チーフ・ステージマネージャーを兼務している。二〇一七年より日本オーケストラ連盟主催「ステージ・スタッフ会議」幹事。



# 第16回 日中韓文化交流フォーラム報告

新型コロナウイルス感染症のため中断していたフォーラムが、ついに再開。気分も一新。そこで熱く語られたものは……。

財団専務理事 **小宮 浩**  
(こみや・ひろし)



熱唱する仁川西区立少年少女合唱団の皆さん

到着日、仁川の天候は晴れ。風が少し強かったものの大変暖かい陽気でした。ただ、東京と比較すると紅葉はこちらの方がやや進んでいました。

この夜は、仁川広域市招待の歓迎晩餐会が開かれました。冒頭、三十三名の仁川西区立少年少女合唱団の皆さんが、三カ国の言葉でフォーラムの会歌とも言える「わたしは未来」を、そして各国でそれぞれ親しまれている「サクラサクラ」、「茉莉花」、「アリアン」を美しいハーモニーで披露してくださいました。

久しぶりに耳にする「わたしは未来」は、なつかしく、また作曲者の松下功先生の急逝が思い出され、涙を押さえることができました。

## フォーラム再開

仁川は黄海に面しているせいででしょうか。十月三十一日の朝、ホテル一帯は濃霧につつまれていました。

四年ぶりのフォーラムですが、主催国の韓国は、韓日文化交流会議委員長の鄭求宗委員長以下八名、中国は中国人民対外友好協会副会長の李希奎委員長以下十名、日本は当財団理事長の澤和樹委員長以下七名、これが各国代表団の構成人員でした。



三カ国の委員長。右から鄭求宗(韓国)、澤和樹(日本)、李希奎(中国)の各氏。左は韓国の辛正承氏(韓中友好協会会長、前駐中大使)

午前九時、漢陽大学教授で韓国側の事務局長を務める李康民氏の司会でフォーラム開始。今回のテーマは「ポストコロナ時代の文化交流」。

各国の委員長の冒頭挨拶で、日本は私が担当いたしました。内容的には要約すると、フォーラムの再開を喜ぶと共に継続は力なりの考えのもと、三カ国が連携、協力をさらに強め、特に若い年代の層の交流を深めることを確認してフォーラムのさらなる発展をそれぞれの立場で主張したことでしょうか。

そして各国専門家による講演に入りました。最初に演壇に立ったのはソウル大学日本研究所助教授の金孝眞先生。金先生は、ハーバード大学や京都大学で学んだ経験から現在のオンラインなどの情報伝達・交換の有意性を認めながらもフェイク情報などどう対処するか、といった問題に言及。また日本における「京町屋の保存研究」を通して、現代から未来へと文化を伝えていく重要性を説かれ、そのためには若い世代に使命を引き継いでもらうための支援が必要



金孝眞先生



朴光海先生



澤和樹先生



各国代表団

である主張されました。次に中国社会科学学院の研究員教授である朴光海先生が登場。先生は北京大学韓半島研究センター特任研究員、韓中友好協会理事等を務める韓国研究の専門家。先生はコロナ禍において、三カ国が互いに協力しあったことに感謝の意を表

し、三カ国は豊かな交流資源である優れた文化を有しているわけであるから、これを用いて今後さらに交流を発展させるべきであることを主張。さらに世界的にも喫緊の課題となっている少子高齢化、A・I、地球温暖化に伴う気候変動などの問題に対して解決にむけての討議を三カ国の若人によりかけて、そのための会議を開きませんか……と提案されました。

最後に登壇した澤和樹理事長は、御自身の音楽人生を土台に東京藝術大学の学長時代に遭遇したコロナ禍にどう対応したか、を熱く語りました。その中で医療従事者やエッセンシャルワーカーの方々への感謝とエールをこめてパッパの「G線上のアリア」をバックに「Life」という動画を作成したことを映像と共に紹介されました。

そんな時、突然同時通訳の機器に不具合が発生。会場は何とも言えぬ空気が一瞬流れたのですが、理事長は少しもあわてず、持参した名器グアルネリ・アークライトを取り出し、機械の調子が戻るまで……ということ、マスの「タイスの瞑想曲」を演奏。名器と名演奏は人々の心を癒すという……ことでしょうか。

## 日中韓書道ライブ

今回のライブパフォーマンスは「書」をとりあげることでなりました。日本は大阪芸術大学教授で書道家の紫舟さんに参加していただきました。

その紫舟さんは、「人は書法で森羅万象をどうとらえてきたか」というテーマのもと、ホルストの組曲「惑星」ジュビターのメロディーにのって特製の大きく張った和紙にろうけつ染めの技法を用いて、大きく羽ばたく丹頂鶴を三羽描き、三角形の配置で「力」を



制作中の金鍾健さん



作品を解説する紫舟さん



三カ国の藝術家勢ぞろい



龍蓮さんの横笛の音に乗って制作中の王東声さん

パフォーマンスに関しては、澤理事長の「個性あふれるパフォーマンスに感銘しました。三カ国の友情、文化の協力発展への力強い一歩を感じました」という感想が日中韓の関係者がいただいた最大公約的なものだったと思います。

## 江華島へ

十一月一日、仁川近郊の視察ということで九時にホテルを出発。この日も霧の朝でした。



仁川開港場通り

仁川は首都ソウルの西四十キロほどの地にあり、人口はおよそ三〇〇万人とのこと。韓国を代表する港湾都市です。一八八三年に港が開かれた時の人口は、わずか四七〇〇人ほどだったとか。ここは多くの歴史的ドラマを秘めたところで、近年では朝鮮戦争の時、一九五〇年九月に国連軍が上陸作戦を敢行したことで知られています。

仁川開港場通りは開港以来、日本や中国などの多彩な文化が調和した歴史的空間であるといわれています。事実、ここには韓国で唯一のチャイナタウンや博物館となっている日本の旧第一銀行、アートブラットフォームとなっている一九三〇年代から四〇年代に建てられた日本郵船の赤レンガ倉庫などが往時をしのばせてくれます。

また、さまざまな坂道に沿って建てられている家々は異国情緒をかもしだすには十分なものがああります。正午、韓国流家庭料理の店で昼食をいただいたあと江華島を訪れました。

ここは韓国を代表する川のひとつである漢江の河口に位置します。韓国本土とは江華大橋と江華草芝大橋の二本の橋によってつながっています。

江華島は、ある意味で韓国の歴史が凝縮された所という気がします。二〇一〇年に開館した「江華歴史博物館」には、先史時代から



お酒が入れば皆ごきげん(松島キョンボクンにて)



江華島の支石墓遺跡にて。右から鄭求宗委員長、澤理事長、筆者、小林克夫財団事務局長、李康民事務局長(韓国)

写真: 仙波志郎

令和五年度助成事業の採択状況について  
令和五年度助成事業の申請、採択状況について次のおり報告します。

■文化財保存修復助成事業  
二十八都府県の教育委員会等から推薦があり、審査の上、次のおり助成を決定しました。

|      | 申請数 | 採択数 | 決定金額    |
|------|-----|-----|---------|
| 美術工芸 | 十七  | 九   | 二百八十万円  |
| 建造物  | 三十二 | 十六  | 六百四十五万円 |
| 有形民俗 | 二   | 二   | 六十五万円   |
| 計    | 五十一 | 二十七 | 九百九十五万円 |



修復された「海童神社拝殿」  
(青森県北津軽郡板柳町)



修復された「通神社本殿」  
(山梨県甲州市)

■芸術研究等助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のおり助成を決定しました。

| 申請数 | 採択数 | 決定金額    |
|-----|-----|---------|
| 二十六 | 十八  | 七百五十四万円 |

東京藝術大学 藤波重彦  
「和楽の美 源氏物語〜夕顔・須磨の巻」



平安春の宴



フィナーレ

■国際協力事業  
研究者からの申請に基づき、審査の上、次のおり助成を決定しました。

| 申請数 | 採択数 | 決定金額    |
|-----|-----|---------|
| 七   | 七   | 三百九十九万円 |

■重点助成事業

(1)昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業  
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、貴重な歴史資料であり近代日本の象徴的遺産として文化的価値が高い。経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分(スカート)の復元のため、令和元年度から令和六年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施しています。  
令和五年度は六年計画の五年目です。



ボディス収納箱 立体トルソー 着付け



大聖寺本堂にて

(2)尼門跡寺院文化財保存修復支援事業

本事業は、平成十二年度から企業等のご支援を受けて毎年一件の助成を実施し

ているものです。

令和二年度から、「真如寺蔵・無外如大禅尼像他研究修復出版プロジェクト」を立ち上げ、令和二年度から令和五年度まで募金を行い実施しています。  
令和五年度は四年計画の四年目です。



(3)その他(東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業)

教育委員会から推薦があり、審査の上、次のおり助成を決定しました。

| 建造物 | 採択数 | 決定金額    |
|-----|-----|---------|
| 三   | 三   | 二百四十八万円 |



修復された「愛宕神社本殿」  
(宮城県仙台市)

ご寄付を頂きました皆様

◎令和5年10月1日から12月31日まで  
敬称略/順不同  
☆寄付金  
○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付  
東日本遊技機商業協同組合  
ヤフーネット募金(86名様)

◎賛助会員ご入会並びにご寄付(前記のご寄付を除く)のお願い

〈賛助会員〉

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。  
法人正会員 年額(1口) 50万円  
個人正会員 年額(1口) 1万円  
維持会員 年額(1口) 10万円

〈寄付〉

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。

(電話)・〇三・五六八五・二二二一

(1)銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

(銀行振込)

- 三井住友銀行 上野支店 普通 6615500
- みずほ銀行 上野支店 普通 4478576
- 三菱UFJ銀行 上野中央支店 普通 0796384

(郵便振替)

00160・5・12319

※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただくのと幸いです。

(2)インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、クレジットカード又はTポイントによるご寄付(募金)を受け付けています。  
「YAHOO! JAPAN ネット募金」

●税法上の優遇措置  
当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金(募金)には税法上の優遇措置が適用され、

- ←〇「文化・スポーツ」
- ←〇「文化財保存修復支援募金」
- ←〇「クレジットカード」又は「Tポイント」を選択
- ←〇募金
- (3)特定寄付信託  
信託した金銭を運用収益とともに寄付するものです。当財団は、みずほ信託銀行と特定寄付信託に関して契約しています。詳細は左記にお問い合わせ下さい。  
みずほ信託銀行  
(電話)・〇三・三二七四・九二〇三
- (4)遺贈  
「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付を承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部又はすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。  
財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。  
遺贈をご検討いただく際は、お電話かメールにて当財団までご相談下さい。

(5)商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机の中等で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、QUOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。

所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせください。  
\* \* \* \* \*  
☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

顕彰のお知らせ

当財団の理事長を務められた宮田亮平氏が、令和五年度の文化功労者として顕彰されましたのでお知らせします。

お知らせ

令和六年度助成金の申請に関するお知らせ  
令和六年度助成事業にかかる助成金申請について、左記のとおり受け付けを行っております。詳細は、当財団ホームページ(助成金のご案内欄)でご確認下さい。  
例年実施の文化財保護・芸術研究に係る助成(申請期間)  
令和六年一月十日〜二月末日(必着)

今号の表紙

平山郁夫 朝陽砂漠らくだ行 一九八六年

平山画伯がシルクロードの地に足を踏み入れたのは一九六八年のこと。目的は日本文化の源流をわが眼で確かめるためだった。以来四〇年にわたる平山画伯のシルクロードの旅は続いたのである。

平山画伯の描くシルクロードをテーマにした作品は大別すると二つになる。一つはシルクロードの地に残る遺跡やそこに暮らす人々を描いたもの。もう一つはシルクロードの地を舞台に平山画伯の創作力が生み出し

たロマンの世界。本作品は後者になる。砂漠を行くキャラバンを昼と夜に分けて対称的に描くのは平山画伯の好みかもしれない。その集大成とも言える作品群が連作「大シルクロード」となっている。



朝陽砂漠らくだ行 1986年

編集後記

驚愕の年明けとなりました。元旦の一日、石川県能登半島で起きた大地震と津波がもたらした被害は甚大なものでした。亡くなられた方も多く、心が痛みます。被害の全容は、この時点で判明しておりませんが、お亡くなりになった方々の御冥福を衷心よりお祈り申し上げます。  
そして翌二日、羽田空港での日本航空機と海上保安庁の航空機との衝突事故。いったい世の中、どうなっているのだろう、と思わざるをえません。海外に目をむければウクライナ、中東ガザ地区における戦火はまだ納まりそうもありません。

そんな世の中ですが、事務局一同、今年も頑張ってくださいと思っています。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)  
二〇二四年 新春号 通巻第一〇四号

★令和六年一月二十五日発行  
★編集発行/公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎  
〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五十五  
電話(〇三)五六八五一一三一一  
FAX(〇三)五六八五一一五二二五  
URL:https://www.bunkazai.or.jp/  
E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp  
★印刷 篠田印刷株式会社

お願い

(1)昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業のための募金のおお願い  
財団の重点助成事業として実施している「昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業」は、令和元年度から令和六年度まで募金を行っております。  
\*  
募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。  
\*  
※郵便振替の場合、通信欄に「大礼服」とお書き下さい。

銀行振込(①銀行名②口座番号③名義)  
①三井住友銀行 上野支店  
②普通 6615500  
③(公財)文化財保護・芸術研究助成財団  
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただくと幸いです。

(電話)・〇三・五六八五・二二二一  
郵便振替(①振替番号②加入者名)  
①00160・5・12319  
②(公財)文化財保護・芸術研究助成財団